

遊行柳の下で

神田光

畦道では

蛙や蝗が飛び跳ね

蛇がよろよろと

存在感を発揮している

樹には油蟬が

一生分の力で弦を弾き

真っ白な雲は

日射しを遮るには不十分だ

都会では

熱中症予防のために

冷房の常時稼働が

推奨されているという

大きな柳の下にいれば

風は流れ熱がこもることもない

開発された文明に

さらなる開発を

上塗りする繰り返し

いつの間にか

自然の力を見失っていた